

2022. 1. 23 (日) マタイ28:7~10

28:7 そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。』

28:8 彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。

28:9 すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。

28:10 イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。」

<説教>

主イエス・キリストが十字架で死なれて三日目、週の初めの日(日曜日)の朝早く、マグダラのマリアともう一人のマリアはイエスが葬られた墓を見に行きました。(28:1)

彼女たちはイエスの遺体に香油を塗ろうと思っていたのですが、墓には主の使いがいて、「あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを捜しているのは分かっています。ここにはおられません。前から言っておられたとおりに、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。」と言ったのでした。(5-6)

この言葉だけでも彼女たちは何が何だか分からず、にわかには信じられず驚き恐れるばかりだったと思いますが、御使いは更に続けて言いました。

〈そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます』と。いいですか、私は確かにあなたがたに伝えました。〉(28:7)

彼女たちは言われたとおりに、イエスが〈納められていた場所を見〉たことでしょう。

そのとき確認できたことは、イエスが〈ここにはおられません〉ということだけでしたが、彼女たちは御使いの言葉を聞いて、それに従いました。

〈彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。〉(28:8)

〈恐ろしくはあったが大いに喜んで〉とありますので、恐れはなお残っていたけれども、それに勝る「大きな喜び」が彼女たちに与えられたことが分かります。

「大きな喜び」で思い起こすのは、降誕の夜に御使いたちが羊飼いたちに「大きな喜びを告げ知らせます」と言ったこと(ルカ 2:10)、また幼子イエスを捜していた東方の博士たちが星を見て〈この上もなく喜んだ〉こと(マタイ 2:10)です。

神の御子が人となって地上に来てくださったことは私たち人間にとっての大きな、この上もない喜びです。

それと全く同じように、イエスが地上で〈死者の中から最初に生まれた方〉(コロサイ 1:18、黙示録 1:5)という復活も私たち人間にとっての大きな、この上もない喜びなのです。

そして、イエスが「聖霊によりて宿り、処女マリアより生まれ」なされたことも、「三日目に死人のうちよりよみがえり」なされたことも、どちらも〈神の大能力の力〉(エペソ 1:20)

によってなされた事、私たち人間が信じて告白すべき事実なのです。

さて、〈すると見よ、イエスが「おはよう」と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。〉(28:9)

〈彼女たちの前に現れた〉とは直訳的には「彼女たちに出会った」(新改訳第三版ほか)、「彼女たちを出迎えた」です。

〈恐ろしくはあったが大いに喜んで〉御使いの言葉に従って〈急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った〉彼女たちにイエスの方からよみがえられたご自身を現し、見せてくださったのです。

〈おはよう〉とは、朝のことだからそう訳したのですが、直訳的には「喜べ」「喜びなさい」です(欄外注参照)。

神の御使いの姿を見、その言葉を聞いて、空の墓も見て、既に〈大いに喜んで〉いた彼女たちの喜びを、よみがえりのイエスが更に増し加えてくださったと言えるでしょう。

よみがえりのイエスが自分たちを出迎えてくださったと大きな喜びに満たされた彼女たちは〈近寄ってその足を抱き、イエスを拝した〉のです。

イエスは彼女たちを出迎え、ご自分のよみがえりの体を見せてくださり、その御声を聞かせ、その足に触れさせてくださり、ご自分が本当に生きているということをお示しになりました。

なお、このようによみがえりのイエスの言葉を聞いて、イエスを見て、触って、そして食べて、私たちの感覚を通してイエスの死とよみがえりの確証をイエスから受けるのが、今は聖晩餐に与る(聖餐式)ときなのです。

さてこうして彼女たちは他の弟子たちより先によみがえりのイエスによって招かれ、迎えていただき、イエスを自分の目で見、自分の耳で聞き、自分の手でさわることを許され、イエスのよみがえりを確認し、確証を受けたのです。

このように弟子たちより先に恵みを受けた彼女たちに、イエスはお命じになりました。

〈イエスは言われた。「恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。〉(28:10)

「恐れるな。」こう言ってイエスは、大いに喜びつつも同時に恐ろしさを感じていた彼女たちの恐れを完全に消されたのです。

そして今なお大きな恐れの中に落ち込んでいる弟子たちに伝えるべきことを彼女たちにお委ねになりました。

先に天使は〈(彼の)弟子たち〉と言いましたが、イエスが〈前から言っておられた〉よみがえりも信じないで、イエスを裏切り見捨てて逃げてしまっていたあの弟子たちのことを〈わたしの兄弟たち〉とあえて言うてくださったのですから驚きです。

そして弟子たちも含めた〈死者たち〉〈の中から最初に生まれた方〉としてイエスは確かに最初の兄(長男)として弟子たちのとして兄弟でもあられます。

先に御使いが言ったように、イエスが弟子たち〈より先にガリラヤに行かれ〉るのです。

〈…より先に…行く〉とは「先に立って進む」(2:9)、先導するということです。

〈ガリラヤ〉は、イエスが最初に宣教を開始なさった所であり、同時にペテロを始めとする人々を弟子として初めてお招きになった所でした。

ですから、よみがえりのイエスがまずご自分が先にガリラヤに行かれ、そして彼らをガ

リラヤにお集めになるのは、イエスが「闇の中に住んでいた民の大きな光、死の陰の地に住んでいた者たちの光」(4:15-16)であることを弟子たちに改めて示すためでした。

そして彼らを先導なさるよみがえりのイエスに今度こそはどこまでも従う弟子として改めて彼らをお召しになるためでした。(ヨハネ 21 章参照)

本日見た女性たち、また弟子たちへのみことばから分かるように、私たちがイエスと出会い、イエスの弟子として、イエスに従い、イエスから委ねられた働きをするために、確かにイエスの方が私たちを訪ね迎えてくださるのであり、イエスからの召しがあり、イエスがお定めになった時、場所、方法があるのです。

そして、イエスがそれらへと私たちを先導してくださるのです。

私たちはこのイエスに信頼すればこそ、イエスを拝し、イエスの導きを求めて、聖書を読み、学び、神に祈り、またその中で示されたことを信仰によって行うのです。

